



「子どもの歯を健康に保つために」

岡山大学病院小児歯科 仲野道代

岡山大学病院小児歯科 仲野道代

歯は、お母さんのお腹の中にいる頃から作られています。また、子どもの成長過程で様々なことが起こった時に、歯のでき方に影響が現れることがあります。

特に永久歯が顎の骨の中で作られる時期に何か起こった場合には、歯の表面が十分にできずにざらざらしてしまったり、形が悪くなったりする「形成不全」と呼ばれることが起こったり、歯のサイズが小さくなってしまったりすることもあります。さらに、歯自体が育つことができずに、欠損してしまったりすることもあります。しかし、これらのことは突発的に起こることが多いため原因はよく分かっていません。

そのため小児歯科では、このようなことが起こった時には、歯に詰め物をしたり金属をかぶせたり、欠損しているところがあれば入れ歯を作ったりしています。早期に治療することによって、おとなになってから大きな問題となることを未然に防ぐことができます。

今回は、どのようなことが起こった時にどのような治療を行っているかについてお話をさせていただきます。

